

市長記者会見記録

日時：2019年10月1日（火）14時15分～15時39分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：ふるさと納税で川崎を体感（財政局）

【話題提供】日本最大級のハロウィンイベント「カワサキハロウィン2019」の開催について（経済労働局）

【話題提供】姉妹都市提携40周年を記念した、ボルチモア市の訪問について（総務企画局）

<内容>

<ふるさと納税で川崎を体感>

【司会】 お待たせしました。ただいまより市長記者会見を始めさせていただきます。

初めに、本日の議題であります「ふるさと納税で川崎を体感」から始めさせていただきます。

それでは、本日の記者会見にご同席いただいております皆様のご紹介をさせていただきます。

株式会社川崎フロンターレ代表取締役社長、藁科義弘様でございます。

【川崎フロンターレ 藁科社長】 藁科でございます。よろしくお願いいたします。

【司会】 続きまして、株式会社DeNA川崎ブレイブサンダース代表取締役社長、元沢伸夫様でございます。

【川崎ブレイブサンダース 元沢社長】 元沢です。よろしくお願いいたします。

【司会】 続きまして、川崎タクシー株式会社代表取締役、関進様でございます。

【川崎タクシー 関社長】 関と申します。よろしくお願いいたします。

【司会】 続きまして、パティスリーアノーオーナー、宮下哲次様でございます。

【パティスリーアノー 宮下オーナー】 宮下です。よろしくお願いいたします。

【司会】 ありがとうございます。4名の皆様には、後ほどご提供いただきました返礼品のご紹介を行っていただく予定になってございます。

それでは、福田市長より、本件につきましてご説明をお願いいたします。

【市長】 それでは、このたび、川崎の魅力発信やイメージ向上を図りながら、寄附額の増加を図るため、ふるさと納税の返礼品を拡充するとともに、民間専用サイトを通じた寄附の受付を10月2日水曜日の正午から開始いたします。

この背景といたしましては、多くの市税がふるさと納税により流出している実態がある中で、この6月に制度が一定改善されましたことから、その趣旨を踏まえ、全国に川崎を発信し、応援団を増やしていきたいと思っているからでございます。

寄附をいただいたお礼といたしましては、川崎を「観る」、「体験する」、「味わう」の各分野で体感していただけると品物を、数量限定品なども含め145品目をご用意いたしました。

これらの返礼品は、事業者の皆様から積極的に申込みがあったもの、また、本市職員の発案を事業者の方々が受けとめていただいたものなどがございまして、これから本市の代表として全国に発信していく品々になります。これらを通じて、全国の皆様が川崎を感じていただければと思います。詳細につきましては、この後、担当から説明をいたします。

また、本日は、「観る」、「体験する」、「味わう」の各分野を代表する事業者の皆様にご出席をいただいております。それぞれのお立場から、お品物の魅力やふるさと納税に対する期待などについてお話をいただければと思います。よろしく願いいたします。

【司会】 ありがとうございます。

続きまして、財政局資金課長より、民間専用サイト等のご説明をいたします。

【資金課長】 それでは、詳細につきましてご説明させていただきます。

まず、画面でございます。ご覧いただいております画面は、今回の事業拡充に伴いましてリニューアルいたしました本市のふるさと納税のトップページになります。お手元の会見資料をご覧いただきまして、まず、民間専用サイトの改正につきましてでございますが、「ふるさとチョイス」及び「ふるぽ」の2つのサイトに展開いたします。画面が「ふるさとチョイス」のトップページになります。

寄附の受付開始日時は明日2日の正午から、お礼の品の発送時期は、事業者様にもよりまずけれども、今月下旬以降の順次発送となります。

次に、お礼の品の内容でございますが、合計145品目、事業者数は41事業者でございます。

内訳でございますが、添付しております資料1をご覧いただきまして、返礼品は3つの分類にしております。まず、「観る」につきまして、41品目でございます。こちらにはスポーツといたしまして、川崎フロンターレ様、DeNA川崎ブレイブサンダース様をはじめとして、本市のスポーツパートナーの皆様ユニフォームやグッズ、観戦チケットなど、それから、見どころといたしまして、川崎タクシー様の工場夜景

観光をはじめ、ミューザ川崎シンフォニーホールコンサートチケット、川崎純情小町☆のライブチケットなど、それから、旅行券といたしまして、こちらは本市への旅行や出張にもお使いいただけるものでございます。

続きまして、「体験する」でございますが、25品目でございます。物品としまして、防災用品や文房具等、サービスや施設として、着物のリメイク講座参加券や川崎港での釣りざおのレンタル、川崎大師近隣にございます写真館の写真撮影チケット。

おめぐりいただきまして、次に「味わう」が79品目でございます。こちらは和菓子のほうで、久寿餅ですとか、豆菓子、あめなど、それから、洋菓子につきましては、パティスリーアノー様をはじめとする洋菓子でございます。その次がJA様の野菜や宮前メロンでございます。肉・魚としましては、ベーコンや熟成肉、熟成魚などがございます。飲料としましては、お茶や日本酒、我が国の海外大使館での実績のあるノンアルコール飲料、それから、その他商品としましては、海苔と、次のページにまいりまして、キムチ、パン、おせち等でございます。

さらに詳細な資料の用意もありますので、後ほどお申しつけいただければと思います。

続きまして、スクリーンでございます。こちらは民間サイトの「ふるぽ」の川崎市のトップページになります。「ふるさとチョイス」も同様でございますけれども、本市の返礼品につきましては、その下にこのような形で並ぶことになります。

たくさんのご寄附をお待ちしてございます。私からは以上でございます。

【司会】 それでは、続きまして、本日ご同席いただきました皆様から返礼品のご紹介をお願いしたいと存じます。

初めに、株式会社川崎フロンターレ代表取締役社長、藁科様よりよろしくお願ひいたします。恐れ入りますが、演台までお進みください。

【川崎フロンターレ 藁科社長】 改めまして、こんにちは。川崎フロンターレの藁科と申します。

今回のご提案と申しますか、お話の前に、ご承知の方も大勢いらっしゃると思いますが、川崎フロンターレはこの川崎のまちをホームタウンとして今年で創立23年目を迎えておりますけれども、川崎市及び市民の皆様とともに歩んでまいりました。今回、こういうお話がありましたので、ぜひとも協力をしたいということでご提案をさせていただいた次第です。ふるさと納税制度の取組強化というんでしょうか、これを川崎市と一緒に進めていきたいと考えております。

川崎フロンターレらしい返礼品ということを考えたくはありますが、日本一のタイ

トルを獲得することもできましたので、それなりのブランド力も持っているかと思っております。これを活かした返礼品を考えさせていただきました。それによって川崎市としての魅力を発信することができたら、あるいは認知向上ですとか、収入の確保につながることであれば我々もとってもうれしく思います。

商品の紹介ですけれども、今回はクラブオフィシャルグッズから5つの返礼品をご用意させていただきました。その中でも今、皆様から見ても一番左側に置いてありますユニフォームなんですけれども、これは今シーズン、2019シーズンのユニフォームに選手全員がサインをしたものであります。サイン入りユニフォームというのは世の中に出回っているんですけれども、選手三十数名全員のサインが記されたものというのは結構レアでして、私も持っていません。こういう非常に価値のあるものかと思っておりますので、人気商品になればなということを考えております。

そのほか、繰り返しますけれども、オフィシャルグッズの中から面白そうなものを5つご提案させていただいております。

今後につきましては、今回用意した返礼品以外でも、試合のチケットですとか、フロンターレの活動を体験できるような、そんなものもアイデアとしては持っておりますので、またそれは今後ご期待していただきたいと思っております。以上でございます。

【司会】 ありがとうございます。続きまして、株式会社DeNA川崎ブレイブサンダース代表取締役社長、元沢様よりよろしくお願いたします。

【川崎ブレイブサンダース 元沢社長】 皆様、こんにちは。ただいまご紹介いただきました川崎ブレイブサンダース代表取締役社長の元沢でございます。今日はどうぞよろしくお願いたします。

まず、フロンターレさんのユニフォーム、私も欲しいです。ありがとうございます。

こういった川崎のふるさと納税を強化するという大きな施策にお声がけをいただきまして、福田市長をはじめ川崎市の皆様には、まずは御礼申し上げたいと思います。

といいますのも、日頃、我々ブレイブサンダースは、川崎の行政の皆様、あとは、スポンサーをしていただいている川崎の企業の皆様、毎試合熱心に応援して下さる川崎市民の皆様本当に支えられてここまで来れたなと思っておりますので、何かの形で恩返しができるなと思っております。まさにこのふるさと納税のお話は格好の、絶好の機会だと思っておりますので、我々なりに頑張ってお返しできればなと思っております。

今回、もちろん返礼品の中にグッズもあるんですけれども、我々としては、バスケットボールの観戦チケットを中心に返礼品をそろえさせていただきました。といいま

すのも、ぜひバスケットボール観戦を1つのきっかけに、川崎のまちに来ていただきたいと。市外からぜひ足を運んでいただいて、私も大好きなんですけれども、川崎グルメを堪能しながら、川崎を色々見て、聞いて、楽しいところがたくさんありますので、市長もおっしゃっていましたが、それを体感していただきたいと、そういう思いから、今回は観戦チケットを中心に返礼品をそろえました。

中でも、今、画面に映していただいておりますが、ペア観戦チケットで、ブレイブサンダースで大人気のマスコットのロウルと、あと、同じく大人気のチアリーダーのIRISとおりますので、試合後にマスコット、チアと一緒にコートで記念撮影を撮るという体験つきの観戦チケットを今回ご用意しております。こちらは私から見ても大変お勧めのものになっておりますので、一人でも多くの方に体感していただきたいなと思っております。

最後になりますが、バスケットボール新時代に突入しております。今、大変盛り上がっております、いよいよ今週木曜日からBリーグ4年目が開幕いたします。この勢いに乗って何とかBリーグ初制覇をなし遂げたいとともに、今回のふるさと納税とともに、ますます川崎のまちを盛り上げられるように頑張りたいと思いますので、ぜひ引き続き応援のほどよろしく願いいたします。以上でございます。

【司会】 ありがとうございます。

続きまして、川崎タクシー株式会社代表取締役、関様、よろしく願いいたします。

【川崎タクシー 関社長】 改めまして、こんにちは。川崎タクシーの関と申します。

私どもの会社は、ユニバーサルデザインタクシーってご存じですかね。最近すごくはやっておりますけれども、20年ほど前から私どもは取り組んでいたんですけれども、なかなかうまくいかなかったんです。それで、6年ほど前の7月にようやくといましようか、川崎市長さんのほうでご了解いただいて、乗り場の問題ですとか、また、補助金の問題もあるんですけれども、全国に先駆けてユニバーサルデザインタクシーに取り組んだのが川崎市なんです。そうしましたら、その年の秋に東京オリンピック・パラリンピックが決まって、国を挙げて取り組むようになっちゃったんです。ですから、トヨタさんも日産さんも、もうタクシー用にはセダン車はつくらないと。もう全てユニバーサルデザインタクシーであるというふうになってきたんです。

そういう途中の4年ほど前でしたですかね。1月6日の神奈川新聞の一面に大きく取り上げられたんですけれども、ユニバーサルデザインタクシーを使って、障害者の人や高齢者の人、病人は無理でしょうけれども、そういう人たちを30組、川崎市に招待すると。それで、工場夜景を見に行こうという企画をされたんです。

本来、障害者の人や高齢者の人たちがどんどんまちに出てきて、家に閉じ込めておかない、健康寿命を延ばそうというのが本来のUDタクシーの良さであるわけですので、そういうものを先駆けて川崎市が取り組んでいただいたということで、これがふるさと納税の返礼品になるということはすばらしいことだなと私は思っております。

障害者の方や高齢者の人たちを連れてくるというだけではなくて、今、バスもそういうことをやっておりますけれども、こういうUDタクシーであれば、狭いところにも行けるし、すごく景観のいいところにも行けるということで、若いカップルの人たちにも人気があるということのようですので、非常にいい川崎市のPRになる返礼品ではないかなと思っておりますので、ぜひご理解のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。どうもありがとうございました。

【司会】 ありがとうございます。続きまして、パティスリーアノーオーナー、宮下様よろしくお願ひいたします。

【パティスリーアノー 宮下オーナー】 初めまして。株式会社アノー、パティスリーアノーの宮下と申します。よろしくお願ひします。

まず、私どものお店なんですけれども、2008年に川崎市多摩区宿河原に1号店をオープンしまして、2012年に東京都狛江市に2号店をオープンしました。2017年に東京都調布市にパンdeアノーというパン屋さんをオープンして、今、3店舗展開しています。

2008年にオープンした宿河原のお店から今年でちょうど11年になるんですけれども、3年ぐらい前にとあることがきっかけで、うちのお店のコンセプトとしては地域に輪をつなげていきたいという思いで始めたんですけれども、それがなかなか届いていなかったなということに気づかされました。これではいかんと思ひ、何かしら地元の方に愛してもらって、誇らしく思ひいただき、親しまれ、そういうお店を持ちたいと強く考へて設立したものが、今回、エントリーさせていただいた多摩川・河畔散歩というギフトブランドになります。

これは、川崎市には、多摩川という非常にすばらしい日本の四季を感じる事ができる一級河川だと思ひしております。今の時代、すごく時代が早く回っているような気がするんですけれども、その四季を感じられる、そういうぬくもりとか温かさを、うちのお菓子を通じて広げていきたいなと思ひて設立したブランドです。

今回、出していただいたのは一番大きいサイズなんですけれども、それ以外にも中サイズ、小サイズとエントリーさせてお願ひしております。それぞれ商品の中身がフ

イナンシェとかマドレーヌ、焼き菓子中心になっています。焼き菓子中心なんですけれども、それ1つずつにパッケージデザインを施していきまして、それが多摩川にちなんだ地名のものであったり、多摩川の花であったりとなっています。また、当店の隣に二ヶ領用水という場所があるんですけれども、そこは桜のすごくきれいな場所です。その桜をモチーフにしたお菓子を作ったりとかして、これをぜひ日本全国に発信したいなと思っています。今はまだ完成はしていませんけれども、これから新しくどんどん種類を増やして、全ての商品に多摩川にちなんだものを作って、より多くの皆さんに川崎、多摩川というものを知っていただいて、観て、感じて、味わっていただけたらと思っています。以上です。よろしくお願いします。

【司会】 どうもありがとうございました。

それでは、本議題に関する質疑応答に移らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

【幹事社】 よろしく申し上げます。

【市長】 はい。よろしくお願いします。

【幹事社】 ふるさと納税寄附額の増加を図るためということですが、これまでの実績についてお聞かせいただきたいのですが。

【市長】 事務方のほうからでもよろしいですか。

【資金課長】 昨年度の実績は2億円ほどでございますが、昨年度は大口の遺贈の関係ですとかがございましたので、若干多目でございます。29年度は5,000万円、28年度は2,000万円、27年度が6,000万円ぐらいでございます。以上です。

【幹事社】 先ほど市長のお話の中でも他市への流出を課題に感じていらっしゃるというところがありましたが、実際、どのように受けとめていらっしゃいますか。

【市長】 影響額が56億にもなるということに市民の皆さんが報道で伝えていただいている、あるいは私どもから積極的に最近伝えておりますけれども、その額に市民の皆様も非常にびっくりしておられる。そういった意味で、ふるさと納税の本来の趣旨ということ踏まえた上で、私どももしっかりとした展開を考えていきたいということで、今日は代表して4人の方にお集まりいただきましたけれども、それぞれに川崎愛あふれるコメントをしていただいた。そういうことを広く国内に発信していきたいなと思っています。

【幹事社】 目標額とかはありますか。

【市長】 目標額は1億としておりますけれども、政令市の12都市ぐらいは大体2億円以下ということですので、1つのターゲットというのは2億をしっかりと目指して

頑張っていくと。とりあえずはちゃんと1億円をしっかりと皆さんにアピールしていきたいと思っています。

【幹事社】 また、11月にも品物を追加する予定だということで資料にもいただいています。今後についてはどのように拡充を考えていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 そうですね、今後も第2弾、第3弾と随時募集していきたいと思っています。既に今回の第1回目の締め切りをした後からも、事業者さんからお問合せをいただいておりますので、そういった形が、秋、いつ頃ですかね、第2弾は。

【資金課長】 まず、11月。

【市長】 11月。そうですね、というふうな形でつなげていきたいと思っています。

【幹事社】 今回は「観る」、「体験する」、「味わう」の各分野ということですが、今後についてはどのあたりを増やしていきたいという。

【市長】 クラウドファンディング型というか、用途が明確になって効果ははっきりとわかるような、そういったものもやっていきたいという思いはございます。まだしっかりとした、具体的に何をというところまでは行き着いていないので、財政局の中で色々な検討をしてもらっていますが、様々な課題もあるものですから、そのあたりを整理しないといけないなと思っています。

【幹事社】 クラウドファンディング型とおっしゃいますと、何か事業に対して寄附をしていただいているという。

【市長】 そうですね。

【幹事社】 例えばどういったものになるのでしょうか、その場合は。

【市長】 まだ具体的に言えるものというのではないんですけども、様々な課題があって、税金で本来やるべきものなんじゃないのという事業としてやるものなのか、あるいはこういう寄附のクラウドファンディング型でやるべきなのかという整理だとか、色々あって、そういう課題をしっかりとクリアした上で提案していきたいなと思っています。

【幹事社】 それは公共事業にもしかしたら分類されるようなものになるかもしれないということですか。

【市長】 ん？ ごめんなさい。

【幹事社】 例えば公共事業みたいなものに対してクラウドファンディングをしていくみたいなことなんでしょうか。

【市長】 あんまりそれって考えられないかなと思うんですけども。クラウドファンディング型については、まだまだアイデアベースのものが出ているというぐらいで

すかね。

【幹事社】 わかりました。あと、ここに145品目と書いてあるんですけども、前はどれぐらいで、どれぐらい増やしたのかというのを教えていただきたいんですが。

【資金課長】 数え方が難しいんですけども、今現在、19品目という数え方をしています。その19品目自体は引き続き実施はいたします。それプラス、今回、145品目にしたということです。

【幹事社】 以前19で、今回、プラス145で大丈夫ですか。

【資金課長】 はい。

【幹事社】 わかりました。

【幹事社】 市長にお伺いしたいんですが、この145品目をご覧になって、率直にどのような感想でしょうか。このラインナップを…。

【市長】 正直、何か手前みそっぽい話になっちゃうからあれなんですけれども、すごくほっとしたというか、いい返礼品を申請していただいたところもありますし、あるいはこちらからお願いしてご協力いただいたものもありますが、いいものが揃ったと思います。第1弾としては、そういう意味では非常にインパクトのあるものができたのではないかと考えています。それこそ社長も持っていないものとかですね。

【幹事社】 市長がこれ欲しいなとお思いになったものは。

【市長】 それはすごくいっぱいありますよ。

【幹事社】 例えば挙げていただくとしたら、何かございますでしょうか。

【市長】 この社長の持っていないものとかいうのもありますし、スポーツ1つということだけじゃなくて、スポーツを観に来ていただいて、その後、川崎の工場夜景も観てもらって、食べてもらってという一連の流れをふるさと納税で体験していただければなと思っているので、どれか1つというより、ある意味、複数でぜひ川崎においでくださいと思っています。

【幹事社】 ありがとうございます。あと、社長も持っていらないというフロンターレさんのユニフォームのことで社長にお伺いをしたいんですけども、このユニフォームは2019年の、今、選手たちが使っているモデルのユニフォームなんですか。

【川崎フロンターレ 藁科社長】 はい。今回は2019シーズンです。もしこれが来年も続くことになれば、おそらく2020シーズンということになるかと思っています。

【幹事社】 じゃあ、来年はもしかしたらユニフォームじゃなくて、違うものが並ぶかもしれないと。

【川崎フロンターレ 藁科社長】 かもしれない。

【幹事社】 了解しました。あと、先ほどご挨拶の中で社長がおっしゃっておられたんですけれども、今後、試合のチケットですとか、フロンターレの活動をよりわかっただけのものを期待してほしいというふうにおっしゃっていたんですけれども、今後というのは、例えばいつぐらい、来年ぐらいまで待っていれば……。

【川崎フロンターレ 藁科社長】 フロンターレはもちろんプロスポーツチームですので、トップチームが勝利を目指して頑張るといのは当たり前なことなんですけれども、それ以外に川崎の市内を中心に、色々な地域の皆さんとの活動を、去年は1,400回やったんですかね。365日、何か活動しているというクラブなので、その中で、市民の皆さん、あるいは納税していただく方が川崎に来て、一緒に何か活動してもらおうとか、料金制というんですか、お金を取って活動しているものもありますので、それが例えば返礼品になっていくという可能性はあろうかと思います。市民の皆さんと一緒に体験していただくと、そんなことのイメージをしています。

【幹事社】 ありがとうございます。これ、ちなみに全員の選手の方のサインが入ったユニフォームというのは、本来、普通は売っているものではないんですか。

【川崎フロンターレ 藁科社長】 はい。売っているものではないです。ユニフォームを買っていただくと、大体、一選手のファンの方が背番号幾つの誰々ということでもユニフォームを購入いただくんですけれども、そこにその選手がサインをするというのはよくあるケースだと思うんですけれども、この場合は番号がありませんし、そこに全員の選手のサインをするということで、レアな商品でございます。

【幹事社】 了解です。ありがとうございます。

あと、ブレイブサンダースにつきましても社長にお伺いしたいんですけれども、マスコットとチアの方たちと写真を撮れるという機会は、ふだんはやっていらっしゃるんですか。

【川崎ブレイブサンダース 元沢社長】 ふだんは基本的にはやっておりません。たまにファンクラブ会員さん限定の特別なイベント等は企画することはありますが、通常は行っておりませんので、非常にレアな体験であるかと思います。

【幹事社】 じゃ、こういう体験ができるというのはふるさと納税のみということになるんでしょうか。

【川崎ブレイブサンダース 元沢社長】 はい。そうなります。

【幹事社】 了解しました。ありがとうございます。以上です。各社さん、お願いします。

【記者】 先ほど、目標は1億円、2億円を目指すということでしたけれども、今、10月で、一応、この145品目追加後は、とりあえず半年になるわけですが、1億円というのは年間の目標、今年度の目標ということによろしいですか。

【市長】 今年度の目標です。

【記者】 では、来年度以降は2億円を目指すというようなイメージで。

【市長】 頑張りたいですけど、まず、今回の145品目がどういうふうな結果が出るのかをちょっと見きわめたいと思います。

【記者】 それと、影響額56億円。確認なんですけど、これは昨年度の実績ということによろしかったですか。

【資金課長】 昨年度12月までの寄附の実績に基づきまして、今年度の当初課税のベースでございまして、ですので、今年、56億円入るべきものが入ってなくなりましたというお話でございます。

【記者】 なるほど、わかりました。それで、これは交付税の補填がない分を考慮すると、政令市で一番大きい額という理解でよろしいですか。

【資金課長】 さようでございます。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

【記者】 市長、改めて今回、すごい品目が揃ったというのは感じていらっしゃると思うんですけども、改めて川崎の強み、今回のふるさと納税の返礼品に関する強みを教えてください。

【市長】 本当にスポーツチーム、スポーツパートナーの皆さん、日頃からご協力いただいている皆さんのご協力というのはとても大きかったと思いますし、商品についても川崎ならではの、川崎の愛があふれているような、そういった事業者さんのご協力、思いというのがこういう商品につながったと思っております。そういった意味で、川崎を力強く発信していける、本来のふるさと納税の趣旨に合ったやり方で私たちはやっていきたいというものが形になったと思っております。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 大変いい商品が揃ったというのはそうだなと思いつつ、それだけに市民のふるさと納税に対する関心が高まってしまうということがあるかと思えます。先ほど、2億を達成したところで、関心が高まって流出額がさらに増えてしまうということも起こり得るかと思うんですが、そのあたりに対してのご懸念とかはないのでしょうか。

【市長】 あります。正直あります。関心が高まって、ふるさと納税をしようという人たちが増えてしまって、逆にという効果は出てしまう可能性というのは十分にある

と思いますけれども、ただ、このまま何もしないという形ではいけないという危機感の中から、こういうことになっているということです。

【記者】 それから、6月で大分改善されたというお話がありましたけれども、本当ですかと言ったらあれですけど。

【市長】 一定程度は改善された部分はありますけれども、これまでの会見でも申し上げているように、国に対して引き続き、上限設定でありますとか、様々なことを要望してきておりますので、より適切な改善がなされるよう、これからもしっかりと訴えていきたいなと思っています。

特に、高額所得者に対して非常に有利な仕組みになっていますので、その影響額というのは非常に大きいと、そういった意味で、その制度の改善をしっかりとこれからも求めていくという取組はやっていきたいと思っています。

【記者】 藁科社長に何点かお伺いしたいんですが、フロンターレさんのある意味レアなユニフォームだと思うんですけど、基本的にふるさと納税は市外の人向けの返礼品で、逆に市民のサポーターは入手できないという事態になるのかなと。そういう意味で、このセレクションについて、どういう観点でこういうものを決めたのかというのを教えてください。

【川崎フロンターレ 藁科社長】 そういう質問が必ず出るだろうと思っておりまして、おそらく市民の、特にコアなサポーターの方々は、俺も欲しいとか、絶対出ると思うんですね。我々は川崎市を拠点とするスポーツクラブですけれども、ファン、サポーターは、北海道から九州、沖縄まで全国にいらっしゃいますので、そういう方々が、なかなか川崎に来られない方々もいっぱいいらっしゃると思うので、今回の制度の中で、そういう方々にチャンスじゃないんですけど、そんなことを考えていただければいいのかなと。そのときに、また川崎市民の方々から話が出たときは、また知恵を絞ります。

【記者】 今回、観戦チケットが入ってこなかったというのは、間に合わなかったということなのか、また別のもうちょっと違う仕掛けを考えるために、今回見送ったということなのか。

【川崎フロンターレ 藁科社長】 観戦チケットにつきましては、本当にありがたいことなんですけれども、今シーズンもほとんど完売状態で、売りに出されるとか、色々な問題もむしろ抱えているような状態であるので、仮に観戦チケットご用意というのを提案しても、必ずしもご招待できるかという保障がない状態なので、やっぱり、これはちょっと確実性の問題というんですか、そこに課題があるだろうということで、

今回のご提案はやめました。

【記者】 今回、こういう企画で選手の方にサインをしてもらうに当たって、選手のほうからは、どのような反応があったんでしょうか。

【川崎フロンターレ 薫科社長】 基本的に選手たちはもちろんサッカーをやるのが第一なんですけれども、皆さんに支えられているという意識を、我々はいつも選手にも話もしていますので、ファン、サポーターの皆さんが喜んでいただく、笑顔になっていただくためなら基本的にサインするというのも仕事の1つだと彼らは感じていると思います。だから、川崎愛というんですかね、これも。

【記者】 要するに、ふるさと納税の現状だとか、その辺の説明もされて、そのために、今回こういうのなんだよと。

【川崎フロンターレ 薫科社長】 趣旨は伝えてありますけど、本人たちがどれだけそこに理解を深めているかというのは個人差があるかと思います。このために、こういうことでやるんだぞということの趣旨は伝えてあります。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

【司会】 ほか、いかがでございますか。

【幹事社】 2点追加でお伺いします。先ほど、国への働きかけも随時やっていきたいというお話がありましたけれども、要望活動であるとか、具体的な今後の予定とかというのは決まっているものはありますか。

【市長】 総務大臣は、いつだったですかね、内閣改造のちょうど2日くらい前になってしまったので、何月何日だったか、ちょっと今。

【財政部長】 9月9日の月曜日に、直接、市長のほうから大臣に要望しております。

【市長】 本当に、ふるさと納税に絞ってぐらゐの勢いで石田大臣にお話しして、その話は、大臣が交代されるということでありましたけど、必ず引き継いでいくという話もいただいております。

【幹事社】 新大臣に対しての要望とかというのは考えていらっしゃいますか。

【市長】 そうですね。あらゆる機会を通じてやっていきたいとは思っています。これまでやってきたことをさらに伝えていくというのは、今後も変わらずやっていきたいなと思っています。

【幹事社】 わかりました。あと、細かいことなんですけど、品物を追加していく予定ということで、例えば、目標品目とか、最終的などれぐらゐにするとかというのは決まっていますか。

【資金課長】 基本的に事業者様からどれぐらゐお手が挙がるかなというところで、

今のところ、目標数みたいなものは定めてございません。

【幹事社】 ありがとうございます。

【記者】 福田市長にお伺いしたいんですが、これまでのふるさと納税の流出額の伸びを見ると、1億円、2億円という規模で毎年増やしていても追いつかないという状況だと思います。これはどこまで何を、要するに、流出額を抑えていくというために要請をしていくのか、それとも獲得するというものをもっと拡充させていくという方向性なのか、どちらを考えていらっしゃるんでしょう。

【市長】 要請は、やはり、先ほど申し上げたような制度そのものを是正していただきたいというところに力を入れていきたいと思っておりますし、同時に、だからといって、うちは何もしないのかということではない対応策がこれですので、両面でやっていけない話だとは思っております。

【記者】 今年度でしたっけ、財政読本でしたっけ、制度の趣旨を市民にも考えてくれるというようなメッセージも最近は出しているようにも見ています。そういう意味で、今回の取組は市外からの寄附を募るということですがけれども、市民へのこの制度でいいんだろうかということの啓発というか、そういうのは別の手段を考えていくということなんですか。

【市長】 やっています。昨年も、南武線のつり広告で、今の影響額ということをしてシビアに訴えているというのがありますけれど、今年も、さらに、ちょっと激しく伝えていくことをやっていかなければいけないというのは、やはり、本来、これだけの市民が受けられるサービスというものの財源が流出しているという深刻さを理解していただかないといけないと思います。これまでも申してきましたけれども、カタログギフト的な話になっては、ふるさと納税の本来の趣旨とは違うでしょうということを、やはり市民の皆さんに、その制度の趣旨みたいなものをご理解いただくような訴えかけというのは継続的にやっていかなくちゃいけないなと思っています。

【記者】 わかりました。

【司会】 ほか、いかがでございますか。ご質問はよろしいでしょうか。

それでは、最後に、ご同席いただきました皆様と市長で写真撮影をさせていただければと思います。恐れ入りますが、報道機関の皆様につきましては、撮影のほどよろしく申し上げます。

(写真撮影)

【司会】 よろしいですか。どうもありがとうございました。

では、本議題につきましては、これで終了とさせていただきます。関係者の皆様に

つきましては、ご退席のほうをよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

《日本最大級のハロウィンイベント「カワサキハロウィン2019」の開催について》

《姉妹都市提携40周年を記念した、ボルチモア市の訪問について》

【司会】 続きまして、話題提供の2件につきまして進めさせていただきます。

本日の話題提供でございますけれども、カワサキハロウィンの開催について、姉妹都市提携40周年を記念いたしましたボルチモア市訪問についてでございます。

それでは、初めに、市長のほうから、この2件につきましてご説明をいたしますので、よろしくお願いいたします。

【市長】 初めに、10月27日の日曜日にハロウィン・パレードを実施しますカワサキハロウィンにつきましてご紹介をさせていただきます。

お手元の資料1枚目をご覧ください。カワサキハロウィンは、川崎のまちの魅力と活力を全国に向けて発信することを目的に、川崎駅周辺の商店街、大型商業施設及び川崎市で組織するカワサキハロウィンプロジェクトが主催しているイベントでございます。今年で23回目を迎えます、日本最大級のハロウィンイベントとして、国内はもちろん、近年では、さまざまな国のメディアにご紹介をいただくなど、海外まで広く知られるようになりました。

さて、令和初となるカワサキハロウィンでございますが、「新時代への挑戦」をテーマに、さらなる魅力の向上を目指し、より一層、皆様方に注目いただけるよう新たな取組も取り入れておりますので、主な内容についてご説明させていただきます。

初めに、1の主なイベントでございますけれども、今回の目玉でありますハロウィン・パレードは、27日の日曜日に実施いたします。昨年同様、新川通りについては、全6車線を使用して行います。また、今年は、カワサキハロウィンのキービジュアルであります世界で活躍するアーティスト集団、東京ゲゲゲイの皆様のパレードの先頭でパフォーマンスを披露していただき、パレードを大いに盛り上げていただきます。昨年以上に非常にエキサイティングでダイナミックなパレードになっておりますので、多くの皆様にその迫力を感じていただけるものと考えております。

また、パレードにあわせて、カワサキハロウィンの特徴の1つでありますハイレベルな仮装コンテスト、ハロウィン・アワードも行われます。今年もパレード参加者、全2,000人が審査の対象となります。参加者が審査員にアピールできるステージも設置され、審査員が会場内を回遊しながら審査するとともに、一般のお客様も、カ

ワハロ公式アプリから、審査員として投票できるようになっております。

さらに、26日の土曜日には、これまで開催してきたキッズパレードにかわるファミリー向けの新企画として、カワハロ・ランウェイを開催いたします。川崎駅東口にある商店街、銀柳街のアーケード内に設置された長さ約50メートルのランウェイを音楽に合わせてウォーキングします。お子様とファミリーがスポットライトを浴びて、ハロウィンのまちの主演になれる企画となっており、当日は、笑顔であふれる子どもたちや家族で大変にぎやかになると思います。

2枚目をご覧ください。今年は、カワサキハロウィンのアフターパーティーとして、当日仮装している方を対象に、川崎の工場夜景をめぐるパーティクルーズを行います。船上パーティーを楽しみながら、全国屈指の人気を誇る川崎の工場夜景を満喫いただけたと思います。

続いて、2の川崎の魅力を発信する取組でございますが、(1)ハロウィン・スペシャル・フェアと題しまして、本日から、川崎駅周辺の商店街、商業施設がお得なキャンペーンを展開しております。公式アプリには、様々なメニューが掲載されておりますので、ぜひ、そちらもご覧になっていただければと思います。

(2)といたしまして、民間のシェアサイクル事業者と連携し、カワサキハロウィンを通じたエリア観光活性施策の実証実験を実施いたします。

(3)といたしまして、ダイバーシティへの取組でございます。全ての人たちが暮らしやすい、バリアのない社会環境づくりを進めるかわさきパラムーブメントの考え方をカワサキハロウィンに取り入れ、今年度は、かわさき基準、K I S基準と呼んでおりますけれども、認証福祉製品であります次世代型電動車椅子、WH I L L、それから、足こぎ車椅子、C O G Yに加えて、新たに、折り畳み式ハンドル型電動カート、L u g g i eを利用したパレード参加も予定しております。

また、本市と包括協定を締結しておりますN P O法人ピープルデザイン研究所の協力によりまして、かわさきパラムーブメントの取組の一環として、障害の有無にかかわらず、誰もが参加できるカワサキハロウィンパレードを目指します。

3枚目をご覧ください。3のその他の取組といたしまして、市内の子どもたちと交通局により、ハロウィン装飾バスを制作し、溝口駅南口周辺及び川崎駅東口周辺にてそれぞれ運行するほか、27日には、川崎駅東口11番バス乗り場におきまして展示を行います。

今では、全国各地でハロウィンイベントが行われるようになりましたけれども、カワサキハロウィンは、これまで行政を含め地域が一体となって取り組むことで、大き

なイベントに成長してまいりました。

今後とも、地域の皆様とともに、このイベントを盛り上げ、川崎の元気と魅力をさらに発信していきたいと考えております。

次に、アメリカ合衆国・ボルチモア市姉妹都市提携40周年記念訪問についてご説明をさせていただきます。

本市とボルチモア市は1979年に姉妹都市提携を結びまして、今年で40周年を迎えることから、市議会議長のほか、川崎商工会議所副会頭、川崎市国際交流協会会長とともに川崎市代表団を編成し、10月15日から19日まで同市を訪問するものでございます。

今回の滞在では、バーナード・ジャック・ヤング市長を表敬訪問し、両市の今後の交流のあり方について確認書を取り交わします。

また、ボルチモア市や、ボルチモア市が属するメリーランド州の各政策担当者との意見交換や、市内の都市再開発事業の視察を行うほか、両市の交流にご尽力いただいております川崎市名誉国際親善大使の中澤弘様、今回の訪問の受け入れ手配も引き受けてくださっているボルチモア—川崎姉妹都市委員会の皆様などにお会いし、感謝の意を表してまいります。

あわせて、ボルチモア市に隣接するワシントンD.C.では、緑を活用した都市再開発などに力を入れていることから、10月17日には、ワシントンD.C.政府との意見交換や現地の視察を行い、今後のまちづくりの参考としたいと考えております。また、同日に、駐アメリカ合衆国日本大使館を訪問し、現地情勢の情報収集や、姉妹都市交流等に関する意見交換を行う予定でございます。

なお、本市とボルチモア市との交流の詳細につきましては、次ページの資料をご覧くださいと思います。私からは以上でございます。

【司会】 それでは、ただいまご説明いたしました件と市政一般に関する質疑応答に移らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしく願いいたします。

【幹事社】 基本的なことなんですけど、川崎市とボルチモアは、元々どういふご縁があったんでしょうか。

【市長】 最初のきっかけですか。

【幹事社】 はい。

【市長】 詳細を詳しくしゃべれる方はいらっしゃいますかね。では、事務方から、よろしいでしょうか。

【庶務課担当課長】 提携の経緯ですけれども、アメリカ合衆国が建国200年を迎

えた1976年に、ボルチモア市を含むアメリカ諸都市から川崎市との提携を望む声があり、駐日アメリカ大使及び国際親善都市連盟と協議の上、港や工業で発展した点などの共通点を踏まえ、ボルチモア市が提携先の候補となり、1979年6月に川崎市代表団がボルチモア市を訪問し、姉妹都市提携を行いました。

【幹事社】 ありがとうございます。同じ港湾都市、工業都市というところで交流を深めてきたという理解でよろしいんですね。

【市長】 そうですね。ちょっと一般論になりますけど、40年ぐらい前に、こういう姉妹都市というのが世界の都市で非常に活発で盛んになった。その時に、やはり同じ特徴のある都市同士が結びつくというのが非常に多くて、最近、40周年というのが、川崎市は非常に提携都市が多いんですけども、大体そのころに、全国のどの都市もそういうのが広がったということですね。

【幹事社】 節目が多いという感じなんですね。

【市長】 そうですね、はい。

【幹事社】 わかりました。今後、例えば、交流事業とかで新しく、40周年ということで展開したりとかというのは何かあるんでしょうか。

【市長】 ボルチモア市とは、毎年、ボーイスカウトの皆さんが相互交流を重ねていて、今年の夏も行ってきまして、来年は今度、こちら側に来られる側というように相互交流をずっと続けていて、これも30年以上続く交流になっているとか、本当に、あちらの姉妹都市委員会だとかが非常に協力的でやっているものがあります。

資料も付いているかもしれませんが、ルフロン前にある「赤い浮き」という造形物がありますけれども、それをお贈りいただいて、川崎市から、石の灯籠を、インナーハーバーというボルチモア市のメーンのところですけれども、そこに置いていただいてというような形で、ずっと交流が続いているということです。

【幹事社】 今後、さらに交流を深めていったりとか、新しい事業とかという話もされたりするんですか。

【市長】 特に、今、新しいということはございませんけれども、そのあたりもヤング市長とどういう話になるのかというのはございます。連携をもう1回、確認書を取り交わすということになりますので。

【幹事社】 わかりました。ハロウィンのほうなんですけど、細かいことなんですけど、東京ゲゲゲイは川崎市さんと何かゆかりがあられるんですけど。

【市長】 それは、土岐さんのほうがいいかな。

【土岐常務取締役】 僕が答えましょうか。企画制作を担当しておりますチッタエン

タテイメントの土岐と申します。

ビジュアルのキャスティングとかを私どものほうで担当させてもらっているんですけども、東京ゲゲゲイは、実はキャスティングした時点では特に川崎市と縁があるということを知りませんでした。実は、彼らは今、わりと有名になりつつあるパフォーマンス集団ですかね。わりとクリエイティブとかファッションの世界とかで世の中をざわつかせている人たちなんですけれども、会って色々お話をして、実は世に出るきっかけがクラブチッタのイベントだったということがわかりまして、まだプロとして世に名前が出る前に、クラブチッタのコンテストで世の中に出るきっかけをつくったので、ビジュアルの写真撮影を工場夜景でやったんですけれども、お会いした時に、川崎にはとてもシンパシーを感じているというお話を聞きました。以上です。

【幹事社】 出身とかではないんですね。

【土岐常務取締役】 出身ではないです。

【幹事社】 ハロウィンなんですけれども、今回、新企画が2つございます。まず、このランウェイなんですけれども、これはどういう狙いでランウェイ設置という企画が持ち上がったんでしょうか。

【市長】 それも土岐さんからのほうがいいですかね。

【土岐常務取締役】 それに関しても、企画部門を請け負いましたチッタエンタテイメントのほうからお答えいたします。

そもそも、10年ぐらい前から、子ども、ファミリー向けのキッズパレードという催し、イベントをやっておりまして、これは実は大変好評だったんですが、色々な問題もありまして、一番の問題は、キッズパレードは未就学児童が参加するパレードで、2歳、3歳、あるいは、本当にベビーカーのお子さんなんか参加するんですけれども、我々がとっていたコースが、チッタデッラから銀柳街に行って、また戻ってくると約1キロぐらいになって、みんなくたくたになっているんですよ。キッズパレードなのに、キッズがへろへろになっているのはよろしくない。ゴールした時に、みんな笑ってなくて、ほとんど寝ているみたいな、そんな光景はちょっといただけないよねということはずっと課題にしていたんですけれども、それにかわるアイデアとして、では、ど真ん中の銀柳街で雨が降っても大丈夫なあそこに大きなランウェイ、50メートルのランウェイを設けます。そこをモデル気分でウォークしてもらおうというのはとてもいいんじゃないかと。見る人もゆっくり見れるし、プロのカメラマンが写真を撮ってという、すてきな光景がつかれるんじゃないかなということで、今年初めてのチャレンジとして、キッズパレードにかわる企画として、このランウェイをやること

になりました。

【幹事社】 ありがとうございます。あと、また、もう一つの新企画についてもお伺いしたいんですけど、この工場夜景パティクルーズは、おそらく写真映えとかかもしれませんが、これの狙いについても伺えますでしょうか。

【市長】 お願いします。

【土岐常務取締役】 これも幾つか、理由は1つだけじゃないんですけども、3つぐらいあります。

1つは、数年前から、これは川崎市さんと歩調を合わせるような感じで、インバウンド、外国人を呼ぶ目玉に、このカワサキハロウィンというイベントを育てていきたいというテーマがありまして、その中で、観光資源として工場夜景というのは多分インバウンドにすごく刺さる資源であろうということ、ハロウィンと工場夜景を結びつけたというのが1つ。

あと、私ども、これは23回目になるんですけども、世の中にハロウィンブーム的なものがやってきて、日本中がハロウィンで大騒ぎみたいなことに、ここ数年なくなってしまった中で、どこでもハロウィンを体験できる、どこに行ってもハロウィン・パレードに参加できるような状況の中で、元祖川崎なんですけれども、カワハロもどんどん差別化して新しいことをやっていかないと、わざわざ川崎に来る理由というのをいっぱい用意しなくちゃいけないなという中で、パレードが終わった後もすてきな楽しみ、川崎でしか体験できない楽しみが待っているよというのは、これはわざわざ川崎に行く理由にすごくなるんじゃないかなというような、3つと言いましたけど、2つですね。もう1個、何かあったと思うんですけど、ちょっと思い出せません。すいません。

【幹事社】 ありがとうございます。あと、市長にお伺いしたいんですが、今年のハロウィンも、カワサキハロウィンはすごく成功をおさめたと言っていいと思うんですけども、一方で、先ほどお話にもありましたように、日本全国でハロウィンをやっている中で、中でも渋谷でかなり荒れたですとかという残念なニュースも注目されてしまいました。改めて、カワサキハロウィンへの思いというのを、いま一度お伺いできればと思います。

【市長】 やはりチッタさんをはじめとして、地元の商店街、それから商業施設、川崎市、こういった地域一体となって実行委員会でやってきたという、地域丸ごとというか、一体感があることによって、ハロウィンで来られた方たちに安心安全な空間を提供できるというのは川崎だと思いますし、また、それこそ、本当にキッズパレード

じゃないですけど、子どもさんたち、赤ちゃんからお年寄りまで多世代で参加されているのがカワサキハロウィンの特徴だと思いますし、また、新たな魅力も加わっているので、純粋に楽しみたい方は、ぜひ川崎に来ていただけると楽しいんじゃないかなど。

それと、先ほどもお話ししましたがけれども、誰でもというように、かなりユニバーサルというか、障害あるなしにかかわらず、かわさきパラムーブメントの趣旨というのをハロウィンの中に盛り込んでという形でやっていますし、とにかく、ごみをみんなで拾ったりとか、きれいだし、安全だしというところは、まち全体がハロウィンに染まるというのを体感できるのが、やっぱり川崎の全国とは違うところだと思いますので、ぜひアピールを皆様にしていただけると助かります。

【幹事社】 ありがとうございます。

【幹事社】 今の追加で。パラムーブメントというところで、ダイバーシティの取組、少しお伺いしたいんですけど。車椅子の利用者には配慮してということで、具体的に書いてあるんですが、NPOの研究所の協力によりと書いてあるんですが、具体的には、ほかにも何かアドバイスいただいたりとか、取り組まれることというのはありますでしょうか。

【市長】 これまでも、ピープルデザイン研究所とは、障害者の皆さんがゲストじゃなくてホスト側になると。主催者側として、スタッフとして参加しているというのが非常に特徴的な例ですので、そういった意味では、障害があってもなくてもというのは、参加できるだけじゃなく、参加するというのは、ゲストとして、お客さんとして参加するだけじゃなく、自分が主催者側として参加できるというのは、川崎のこの連携の形ができていうふうには思っています。

【幹事社】 ちなみに、どういった方が参加されているんですか。

【市長】 どういう方というのは。

【幹事社】 例えば、障害の種別であったりとか。

【市長】 精神障害の方が、かなり多かったように思いますね。それから、パレードにも車椅子の方が参加していただいたりとか。市営バスのハロウィンの装飾なんかには、去年もそうでしたけども、子どもさんで特別支援学校に通っているお子さん、かなり重度の方も、装飾された市バスに乗ってとかというので、親子さんとも非常に楽しまれてたというのが非常に印象的な光景でしたけれども、そんな形で、どこに行っても非常にユニバーサルな形になっているというふうには思います。

【幹事社】 ありがとうございます。

【記者】 シェアサイクルの実証実験というのは、これはどういう内容のどういう実証実験なんですか。

【市長】 シェアサイクル。

【土岐常務取締役】 これはですね。どこから話せばいいんでしょうかね。

これも、どっちかというとな観光客とか、あるいはインバウンドをちょっと意識したんですけれども、カワサキハロウィンで、せっかくパレードを見に、大勢の方が来ていただいても、パレードだけ見て、じゃあ、帰りに中華街でも行って飯食おうかだと、やった意味ないなと。やっぱ川崎のことを知ってもらいたい。知ってもらうためには、やっぱり滞留させるいろんな仕掛けが必要だと思った中で、川崎市さんのほうで、実証実験でシェアサイクルの基地を、今、各所に設け始めているというお話を聞いたんで、そことカワサキハロウィンが連動することによって、その期間、特に1カ月間、集中的に基地をたくさんつくって、来街者がそれを利用して、川崎の観光地ですとか、ちょっと足運ばば武蔵小杉とかも行けますし、ドラえもん見にも行けますし、工場夜景もみたいな、ちょっとそういう環境づくりをやってみませんかという話を、川崎市さんと、あとシェアサイクルを実際にやられているソフトバンクさんと、あと競合になっちゃうんですけど、ドコモさんとお話ししたところ、皆さん喜んでということで、ご賛同いただいて、じゃあということで、実際に仮設でもいいんで、10月の1カ月、基地のスペースを提供していただきませんかというというお話を、いろんなお店ですとか、商店街ですとか、ホテルさんですとかに声がけしたところ、全部で十数カ所ですけれども、そこが手を挙げてくださっていてということで、何とか形にはなりそうかなという、そういう。答えになっていますか。大丈夫ですか。

【記者】 これ1日からだから、もう今日から始まっているんですかね。

【土岐常務取締役】 はい。今日からスタートなんですけれども、そもそも、ソフトバンクさんも、ドコモさんも、その前から基地は幾つか設けてますんで、そこを利用している人たちにとってみると、ただの10月1日なんですけれどもみたいなことにはなっています。特にハロウィン色がそこについているというわけじゃないんですけれども、ただ、私どもの告知物を見て初めて、あ、そんなことやってるんだって気づいてという利用は、今日から生まれ始めているのではないかと思います。

【記者】 わかりました。はい。

【記者】 ハロウィンのイベントなんですけれども、これ、今年23回目、全国で行われている、今や行われるハロウィンですけど、その先駆けが、ここ川崎。一番最初、発祥の地と言ってもいいでしょうか。

【市長】 ですよ。すいません。

【記者】 一番最初にやったのは川崎ですか。

【土岐常務取締役】 それも諸説あると言ったら大げさなんですけど、多分、最初ですと言っちゃうと、色々言われちゃいそう。

実は、僕の知っている限り、原宿のキディーランドさんかな。子ども向けのパレード。表参道ですね。表参道で子ども向けのパレードは、私どもが始める、もう10年も前から、子どもたちだけのパレードというのはやっています。ですので、大人も参加できるパレードは、多分、川崎が初めてだったと思います。

それは1997年なんですけれども、97年という年は、ディズニーランドがハロウィンを始めた年でもありまして、ディズニーさんは、その3年後からパレードを始めてますんで、そういう意味では、パレードとしては川崎。誰もが参加できるパレードとしては、多分、川崎が一番早かったとは思いますが、ハロウィンが一番早かったということではないです。

【記者】 あともう一つ、姉妹都市なんですけれども、川崎市さんは全部で幾つの姉妹都市があるんでしょうか。

【市長】 幾つ。はい、どうぞ。

【庶務課担当課長】 川崎市と姉妹都市提携を結んでいるのは8都市になります。

【記者】 それもみんな同じ時期に。

【市長】 いや、それぞれちょっとずつ違うんですけど、申し上げますか。そのほうがよろしいですか。

【記者】 まあ、ちょっと。

【市長】 どうぞ、お願いします。

【庶務課担当課長】 はい。一番古くはクロアチアのリエカ市で、1977年になります。一番新しいのが韓国の富川市で、1996年になります。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 先ほど日本で、誰もが参加できるパレードでは初ということだったんですが、そもそも、その時期に、ハロウィンの時期に地域一体で盛り上げていこうみたいな話になったのは、そのきっかけというか、ハロウィンと川崎の親和性というか、その辺、どういう意図で始まったんでしょうか。基本的なところですいません。

【土岐常務取締役】 そもそも、1997年、スタートした時点では、もちろん、こんな大掛かりな、まちを挙げてのイベントにはなっておりませんで、実はチネチッタ通り商店街という、私どもチッタが所属している商店街だけが主催で、きっかけとし

では、今、私どもはラチッタデッラという商業施設運営してはいますが、その当時はチネチッタというシネコンしかなかったんですが、そのチネチッタというシネコンがオープンして10周年の年だったんですね。1987年に、これも日本最初のシネコンとかという感じでオープンして、その10周年なんで、何かちょっと花火上げようよと、ちょっとイベントやって、皆さんに感謝の気持ちを伝えようよということがそもそもの動機だったんですけど。

で、シネコンって、ご存じのように、夏と冬に大作が来るので、なかなか、その時期、忙しいから、イベントをやるなら秋にやろうということで、秋、何やろうかなって。ですので、ほんとに、つまらない動機なんです。たまたま、秋、暇な時に、何かないかなと言っている時に、あ、何か、ハロウィンというイベント、どこもやってないよみたいな、変わったことが好きな社風なんで、じゃあ、どこもやってないハロウィンなら、うちがやりましょうという。正直、そんな軽い動機で、今の規模の50分の1ぐらいのことをやったら、意外と受けてしまったという、それを23年続けているうちに、こうなったという。途中から、10年目ぐらいから、川崎市さんとか、あと周辺のエリアもご参加いただいて、どんどん大きくなっていったというのが、今日に至る簡単なヒストリーです。

【記者】 市長、今のここまで大きなイベントになって、現在、川崎市でハロウィンをやっているということと、何か親和性とか何かお感じになること。

【市長】 親和性ですか。何ていうか、いつも思うんですけど、川崎って非常に人間関係ウエットで、協力する関係がすぐつくりやすいとか生まれやすいというのは、行政も含めてだと思んですが、そういった意味で、チッタさんが始められた話から、だんだん成長して行って、地域一体の形になって、より安全で、よりダイバーシティに富んだというふうな形に進化していったというのは、何ていうか、川崎らしいイベントになったなとか、本当に川崎という、ハロウィンあるよねというふうに市外の方から結構言われるので、それぐらいに成長できたというのは、これまでの関係者の皆さんのすごい努力があったからだと思うので、本当に地域の皆さんに感謝したいなと思っております。

【幹事社】 今年の安全対策、具体的にやってらっしゃることとかあれば、少しお伺いしたいんですけど。ハロウィンについて。

【土岐常務取締役】 安全対策ですけども、多分、去年、渋谷の何かああいう騒ぎがあったんで、川崎は大丈夫みたいなことだったりとか、安全ということがすごく関心事になってしまったんですけど、そもそも安全なんです。というか、安全じゃない

とできないので、元々安全のための対策が、我々の仕事の本当に8割9割みたいなことを、多分、毎年やり続けてきまして、あれだけ大通りを閉鎖してやるということは、当然、警察の許可がないとできませんで、警察さんとは年明けから毎年打ち合わせ始めるんですけれども、許可をいただくのには、ものすごく厳しいです。完璧なプランができていないと、道路を使わせてもらえません。当然だと思うんですけれども。要は、警察の手を借りずに完璧な安全を作ってください。そうしないと許可しませんよというのが警察の姿勢ですから、我々、それに応えるべく、二重三重の安全対策を練って、しかも、何度も何度もご指導いただきながら、最終的には道路使用許可とか、いろんなところの各方面の許可をいただきながらやって、安全面だけ言うと、そういうことになりますし、それに、ただ安全ならいいのということになってしまうので、そうすると、やっぱり来街者が楽しめないという意味がないですから、そこに何かホスピタリティを上乘せしていくみたいなことも、昔から結構、そこはすごく意識してやってきています。ごみ問題なんかも、多分、川崎の場合はほとんど出てないと思うんですけれども、そういう意識で、やってる側も、あと参加する側も根付いているので、大きな問題にはなっていない。とはいいいながらも、裏でいろんな問題はもちろんあるので、それは毎度毎度反省しながら、改善しながらやっているんですけれども。ですので、答えとすると、特に今年、何か今までと違うことはやりません。例年どおりの安全対策をしっかりとやって、事故のないように取り組みたいと思っています。

【幹事社】 なぜ安全にできているのかというのは、どうして、こう…。

【土岐常務取締役】 多分、急に、ある年、突然、12万人のお客さんが来るイベントだったら、とんでもない騒ぎになっていると思うんですけれども、23年かけて12万人になっているんで、ちょっとずつ、少しずつ成長しているんで、そういう意味では、毎年のこの積み重ねというのが、すごく大きいんじゃないかな。

だから、渋谷を例にしちゃ悪いですが、突然あんなった。ここ二、三年であんなっちゃうと、対策が追いつかないみたいなことになるのかもしれないですけど、我々の場合は、最初のパレードは500人からスタートしていますんで、そういう意味では積み重ねかなということと、あと組織がしっかりしている。市長がおっしゃったように、チッタだけじゃなくて、今、主催が35団体ぐらいあるんですけれども、全部で9つの大型商業施設と、あと13の商店街が全部主催に名を連ねて、それらが全部、ただ名前を貸してくれているだけじゃなくて、何度も何度もミーティングを重ねながらやっていきますんで、みんなが目配りをしているというところも安全にできている要因ではないかなと思います。

【幹事社】 ありがとうございます。

【司会】 ほかはいかがでございますか。

【記者】 すいません。1点だけ。ボルチモアの両市の今後の交流のあり方について協議するというと、何か方針転換をするのかなというふうな読み方もできるんですけど、そういう、両市の今後の交流のあり方について協議するというのは、どういう意味のことなんでしょうか。

【市長】 いやいや、非常に前向きなというか、何か方針見直すということじゃなくて、これからどんなことがお互いに可能ですかねと、お互い学び合うものがあるかということについて、率直な意見交換するという意味で、別に何か大きな方針転換するということではありません。

【記者】 例えば、50周年に向けて、どんなようなことを考えようとか、そういうレベルの長期的な話を中心に。

【市長】 そうですね。市長もそうかもしれませんけども、姉妹都市委員会の人たちが非常に熱心な皆さんがそろっているという話を聞いていますので、そういう人たちと、どんな意見交換があるのかというのは少し楽しみにはしていますけど。

【記者】 わかりました。

《豚コレラ関連について》

【幹事社】 発言事項じゃなくてもいいですか。

【司会】 大丈夫です。

【幹事社】 すいません。全然、話変わっちゃいますけど、豚コレラ。アフリカ豚コレラ、今、世界中ではやっていて、他社さんの調査ですが、神奈川県でワクチン接種希望しないというところも出ていたと思うんですが、市独自の支援策であるとか、何か考えていらっしゃる事があれば、お聞かせいただきたいんですが。

【市長】 すいません。ちょっと担当がいらないですね。すいません。

【司会】 この間、県の担当の方と、所管課と関係する部署の者が、情報共有の会議を8月にやっております。隣接県で発生した際に、また県のほうから情報提供いただきながら、川崎市としては協力していくということを確認してしまして、その後、具体的に所管課に、連絡が来ているかもしれないんですけども、新たな情報は今のところ私どものほうには入っていない状況です。以上です。

【記者】 そもそも、畜産って、市内では。

【市長】 あります。

【記者】 どれぐらいありますか。

【市長】 あります。何件だったかな。それも。

【記者】 じゃ、ちょっと、後で。

【市長】 はい。

【司会】 高津区などで。

【市長】 数件あります。麻生区と高津区と。

【司会】 そうです。高津区が結構大きい養豚農家さんいらっしやって、あとは本当に数頭ですとか、数少ない状況です。

【幹事社】 今のところ、じゃ、具体的に何かイメージ持たれたりとか、特にないのですかね。

【市長】 そうですね。今のところは。はい。

【司会】 あくまでも、県のほうが主導になって、それに協力するというような形でございます。

【市長】 はい。

《外国籍の子どもの就学状況に関する調査関連について》

【記者】 先般、文科省のほうで、外国人のお子さんで不就学の可能性がある方が全国で2万人という数字が出ましたけれども、市のほうでの実態はどのように把握されて、今後どのようにご対応されるのかというのを教えてください。

【市長】 まず、小学校1年生から中学校3年生相当までの住民基本台帳上の人数って、今、1,849名、外国籍の方がいらっしやいます。そのうち就学を確認しているというか、小中の学校に通っているなどが1,486名いらっしやいます。そうすると、363名がそれ以外という形になりますが、その内容はですね。ざっくりな話だということなんですけども、インターナショナルスクールなどに通われているのではないかという話と、それと何年か前に居所不明児童の話というのもありましたけれども、そのときにも同じようなことが起こったんですが、本当に出入りがすごく激しいということで、もう既に、住民基本台帳上には残ってるけども、既に国外というか、自分の国に帰られているという方が相当数いらっしやると現時点では考えております。

《公的病院再編要請関連について》

【幹事社】 先日、厚労省が、地域の、全国の424の病院の再編・統合の検討を求めると。そのリストの中に井田病院が入りました。これは県内でも地域医療構想調整

会議でも議論がある話ではありますが、この結果について、どう受けとめていらっしゃるのか、ご感想を伺いたいと思います。

【市長】 その発表されたということは承知しておるんですが、選定基準がよくわからないということなので、どういうことなのかという基準を示していただかないと、その後の話にもならないかなということで、現時点では何ともコメントしようがないというのが現状ですね。

【幹事社】 市民の方からの不安の声というのは、結構、市長にも、この件については、届いたりしているんでしょうか。

【市長】 いや、私のところには、まだそういう声は届いておりません。

【司会】 ほか、いかがでございますか。ないようでございますので、以上をもちまして、市長会見を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355